



MENU

1. 診療前検査の検体到着から結果報告まで ～生化学検査編～
2. 血液型検査用検体と交差適合試験用検体は
別々の異なる時点で採血することが必要です
3. 血液培養の汚染は、正しい採血で減らしましょう

勉強会のご案内

感染制御部・検査部では、月に1度、2階の検査部技師研修室において、業務終了後に勉強会を開催しています。若手の技師を中心に、各分野のホット・トピックスやピットフォールなどについて、話をしています。高橋教授が就任して以来、次回で19回目となります。

第19回 7月24日（月）17：30～（30分程度）

「肺機能検査について～肺活量（vital capacity：VC）・

努力性肺活量（forced vital capacity：FVC）を中心に～」

（演者）大場 騰 技師

院内スタッフなら、どなたでも参加は自由です。勉強会の開催日程・テーマについては、病院の各所掲示板にて1ヵ月程前から案内しております。ご興味のあるテーマがありましたら、是非ご参加下さい。

また、過去の勉強会に関する問い合わせや、取り上げて欲しいテーマがございましたら、下記までご連絡下さい。

1. 診療前検査の検体到着から結果報告まで ～生化学検査編～

現在、診療前検査は、主に生化学・CBC・凝固・尿沈渣検査を対象に、実施しています。結果報告までに要する時間については、検査項目の内容や測定原理によってバラバラで、各診療科の先生や看護師さんにはわかりにくい点が多いかと思えます。そこで、診療前検査に要する時間について、シリーズ企画で解説します。第1弾は、生化学検査です。

生化学検査系では、蛋白・酵素・脂質・電解質・ホルモン・腫瘍マーカー・尿定量検査など61項目を診療前検査として行っており、初回結果報告は「検体到着確認後45分以内」を目標にしています。しかし、初回値が基準範囲外の値であったり、前回の値と大きく異なった場合は、測定機器上のミスも考慮し再検査を、測定上限値を超えた場合には希釈検査を行うため、さらに15～20分程度、結果報告に時間を要します。

検査にかかる時間について、下の図で詳細をご説明します。

診療前検査に要する7つのステップ

1. 各科で採血・搬送

2. 検体到着・確認*

3. 遠心操作（7分）

4. 各測定装置に設置*

5. 測定（15～20分）

6. 結果判読*

7. 電カルへ結果送信*

診療前用の鶯生化学ではなく、ルーチン検査用の青生化学で採血した場合には、さらに15分程度の時間を要します。
(採血管内での凝固作用の終了を待つため)

*②④⑥⑦のステップは、検体数に応じ、2～5分程度の時間を要します。

15分：下記以外の項目

(比色法・免疫比濁法など)

20分：各種ホルモン・腫瘍マーカー項目

(電気化学発光免疫測定法)

5'. 再検査（15～20分）

6'. 結果再判読*

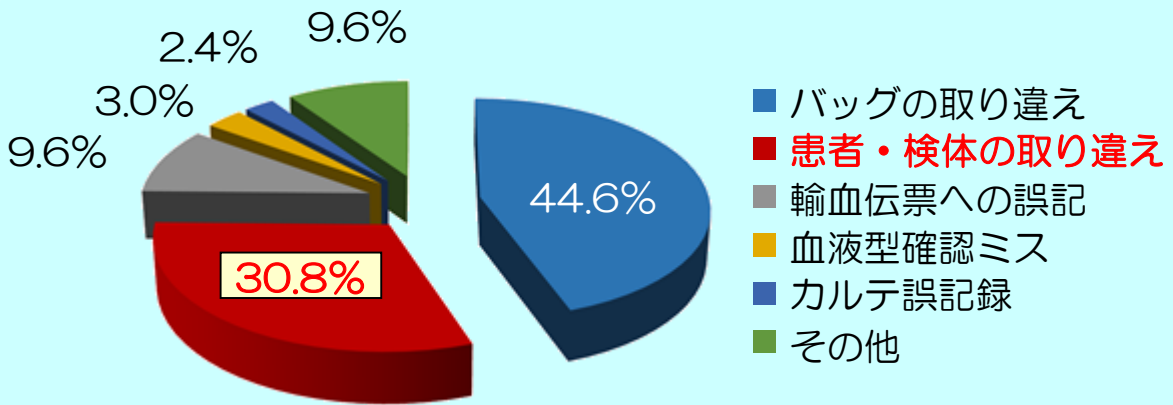
目標
45分

*再検査・希釈検査は、全検体中の約2%で行われています。

お問い合わせ：生化学検査室 内線36430

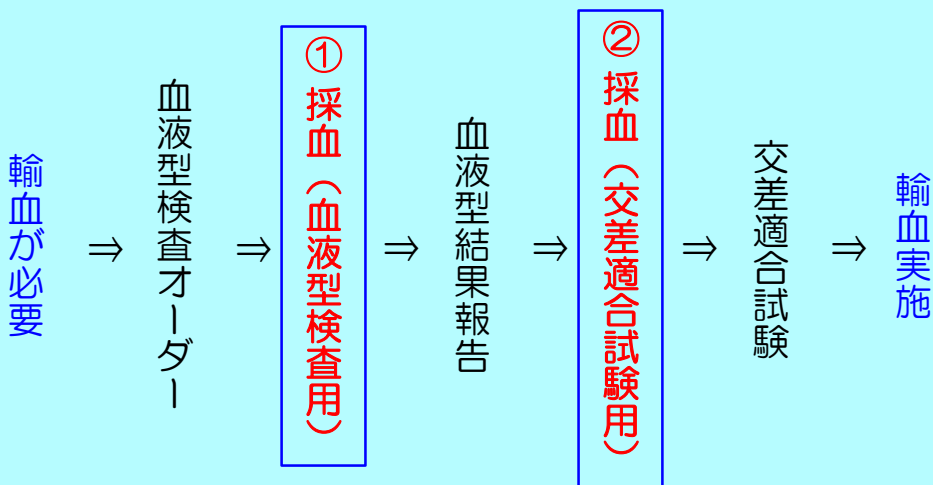
2. 血液型検査用検体と交差適合試験用検体は別々の異なる時点で採血することが必要です

血液型検査用検体と交差適合試験用検体を同時に採血した場合、患者や検体の取り違えに気付かないことがあります。実際、患者や検体の取り違えは、輸血事故のうち全体の30.8%と、2番目に多い原因であることが報告されています。



(日本輸血・細胞治療学会 ABO不適合輸血実態調査結果より)

これを防止する目的で、別々の異なる時点で採血することが厚生労働省の指針でも求められており、患者や検体の取り違えを軽減できます。



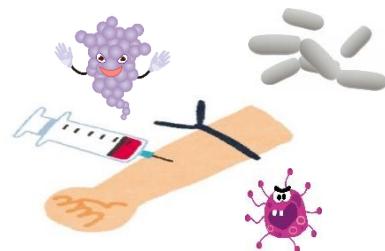
このことから、血液型検査用検体と交差適合試験用検体を別々の異なる時点で採血し提出していただくよう周知徹底をお願いします。冒頭のとおり、1回の採血で血液型検査用と交差適合試験用の2本の採血管に分注して、検査部に提出することは、輸血事故防止の観点からも禁忌行為となっていますので、ご留意下さい。

3. 血液培養の汚染は、正しい採血で減らしましょう

採血による問題点は？

皮膚常在菌による、ボトル内への汚染が問題です。

- ・コアグラージェ陰性ブドウ球菌
- ・バシラス属
- ・コリネバクテリウム属
- ・プロピオニバクテリウム属 など

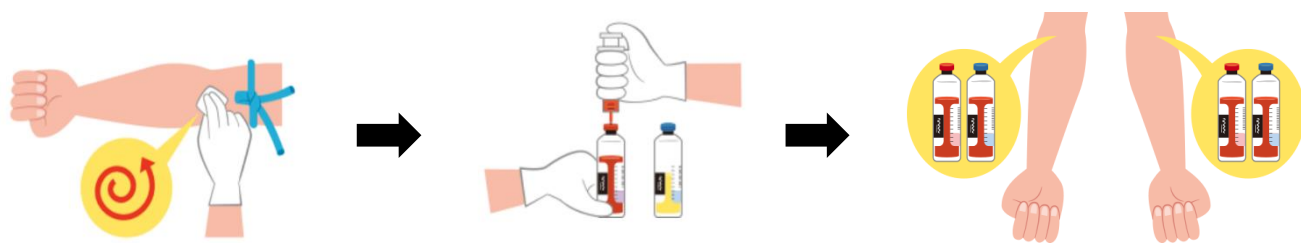


これらの菌が血液培養検査で検出された場合、起炎菌か否か判断するのが難しくなります。

正しい採血方法は？

血液培養の適切な採血ポイントは、次の3つです。

1. 消毒
⇒ アルコール消毒後に10%ポビドンヨードで消毒
2. 採血量
⇒ 20mL採血し、嫌気、好気ボトルに10mLずつ分注
3. 2セット目の採血
⇒ 採血部位を変えて、もう1セット採血



もっと詳しいことが知りたい

血液培養採取マニュアルをご参照ください。

「電子カルテ (SMILE) ⇒ 検査部 ⇒ 検査に必要な各種マニュアル」にて写真つきで掲載しています。

お問い合わせ：細菌検査室 内線36450

広報委員：遠藤明美、古谷大輔、近藤 崇、米澤 仁、高橋祐輔、田本悠佳